
怖い女

友稀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怖い女

【Nコード】

N8790Z

【作者名】

友稀

【あらすじ】

ある日会社に一人の女性がやってきた。彼女は皆から認められ、頼りにされるようになっていた。しかし、私とは一度も話さない。謎に思うも普通にすごしていくが…

謎の女性の真相とは？

女性の本当の目的は何なのか？

不思議な出会い（前書き）

初めて書きました

まだまだ文がなっていないませんが、

よろしく願います！

不思議な出会い

私が昔、働いていた職場で不思議な女性がいた。

私が入社二年目の頃。ある若い女性が入社してきた。

髪は後ろの方でひとつにしぼり、眼鏡をかけていた。

パリツとしたスーツ姿で彼女の背はぴっしりとのびていた。

「林京子といます。まだまだ未熟ですが、よろしくお願いします」
彼女の仕事ぶりは誰もが認めるほど素晴らしいものだった。周りの人とも打ち解けて、すぐ会社に馴染んでいた。

男女共に仲良く、いつしか頼られる存在になっていた。

しかし、私とは一度も話さなかった。私が話しかけようとするどこかに行ってしまうのだ。

一度、彼女の話題になった時だ。

「林さんってすごくいい人よね」。来てもらってよかったわ」

「そうよね。頼りになるよね。仕事だけじゃなく、オシャレとかも参考になるし！」

そんな話を女性職員同士で話していた。

私は小さな声で言った。

「私、まだ一度も林さんと話した事無いんだけど」

小さな声でいったにも関わらず、皆が一斉に私の方をみた。まるで変なものを見たような目で。

「嘘でしょ……。私、一目から話しかけられたわよ」

私も、私もという声が続々と出てきた。

「嫌われてるのかなあ」

私はいつしかそう思うようになっていた。

「そっいえば」

ある女性職員がつぶやいた。

「私この前、林さんを買っ物に誘ったの。この後デパートよらない

？　　って。なら断られたわ」

そんな、といつてもう一人の女性職員が反論した。

「用事があったんじゃないの？」

「でも……」

すると次々に皆がつぶやき始めた。

「林さんっていつつも仕事終わるとすぐ帰るよね」

「私もこの前休みの日に誘ったけど、断られたわ！」

そういえば、と皆言い出し、誰が何を言ってるのかわからない状況となってしまうた。

「あー、もう！」

最初に反発した女性職員が叫んだ。

「林さんの話は終わり！　　彼女が謎でも、いい人なんだからいいじゃない！」

それもそうね、と静かになった。

それ以来、林さんの話があがることはなかった。

林京子とは謎の女性となったのだ。

私

林京子が会社に来てから五年がたった。

私は会社の中で彼氏ができた。

もうそろそろ歳だし、結婚も考えていた。

仕事の方も絶好調で、みんなから頼りにされる立場になりつつあった。

そんな中、誰かの視線を感じる事が多々あった。

会社の中でも、家に帰る時でも、出かけた所でも、常に誰かの視線を感じた。

少し気味悪かったけど、害はないし、気にも止めなかった。

しかし、私はある日を迎えるとうとうしても暗い気持ちになった。

誰にも言えない私の悩み。

誰にも話したことはない。もちろん隼人にも。

そして今日がその“ある日”なのだ。

母から電話があった。

「元気にしとる？ 私とお父さんは元気にしとるよ。お父さ

ん、最近ゴルフにはまってねえ」

よくある親の心配電話だが、私たちにとってはただの心配電話ではなかった。

「私は大丈夫よ。お母さんこそ無理しとらん？ いつでも会

いにいくから、言ってきてね」

母は電話越しにありがとう、と照れながら言った。

そして、少し気まずそうに母は言い始めた。

「沙織、まだあんなこと思ってるん？ もう私たちは立ちな

おってるし、沙織も早く前向きになって」

「大丈夫よ。もう前向きになってる。それに私今付き合ってる人いるん。結婚も考えてる」

すると母は明るい声になった。

「そうか！

それならいいんやけどな！

またつれて

おいで」

うん、ありがとう、と喋って電話をきった。

確かに前向きにはなりつつあるけど、まだ完全には前向きになれていない。

けど、母にそんなこといったらもつと心配かけるし、大丈夫よ、なんていつてみたんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8790z/>

怖い女

2012年1月1日23時55分発行